

東西をつなぐ 東海環状道 本巣－大野神戸IC

中

「コールドチェーン（低温物流）が徹底でき、ホウレンソウの品質維持につながる」。東海環状自動車道西回りルートの本巣インターチェンジ（IC、本巣市）－大野神戸IC（揖斐郡大野町）が30日に開通するのを受け、全国農業協同組合連合会県本部（JA全農岐阜）の担当者は、関西地方向けの県産ホウレンソウの効率的な品質管理が見込めると期待する。

岐阜県は全国有数のホウレ

関西向けのホウレンソウ

安定輸送で品質維持

ンソウの産地で、年間通じて出荷している。一年中出荷する産地は全国的に珍しく、特に関西地方への出荷量は多い。大阪市中央卸売市場の2024年の年間取扱高約4955トのうち、県産ホウレンソウは48%を占め、他県を抑えて1位となっている。金額ベースでも県産ホウレンソウの取扱金額が全体の5割を超える。

一方、ホウレンソウは暑さに弱く、夏場の輸送には厳格な温度管理が求められる。飛

京圏に3割、北陸、関東に1割ずつ出荷している。

飛騨地域の集荷場では、生産者から袋詰めにして持ち込まれたホウレンソウを、数十分で真空に近い状態にして冷やす装置「真空予冷機」で冷却し、出荷まで冷蔵倉庫で保管する。消費地までの輸送は冷蔵車を使うが、時間が長い関西地方への輸送はリスクが付きまとう。JA全農岐阜の担当者は「岐阜のスーパード、関東から来るホウレンソウがしなっているのを見かける。それほど夏場の輸送は難しい」と明かす。

道を通り、愛知県の一宮ジャンクション（JCT）から名神高速道路に乗り入れる。本巣IC－大野神戸ICの開通後は、東海北陸道から美濃関JCTで東海環状道に入り、養老JCTから名神高速に接続できるようになる。

国土交通省岐阜国道事務所によると、開通後の所要時間に大きな違いはないが、飛騨・北陸方面から関西方面のルートが二つに増え、「ダブルネットワーク」が形成されると説明。「交通の信頼性向上が期待できる」と効果を強調する。

輸送経路が増えることで、どちらかの道路で渋滞が起きている場合は回避できるようになり、輸送の効率化につながる。JA全農岐阜の担当者は「飛騨はつれんそつのブランド価値が高まるいい機会にしたい」と意気込む。

（松浦健司）

温度管理

夏のホウレンソウは、飛騨地域のブランド「飛騨ほづれんそつ」が有名で、年間40億〜50億円を販売する。3〜12月にかけて関西圏に5割、岐阜、名古屋を中心とした中



関西地方に多く出荷される「飛騨ほづれんそつ」。開通後はより鮮度の良い状態で関西の市場に届けられる。

渋滞回避

関西地方への輸送は現状、飛騨地域から東海北陸自動車